

治山現場にて安全パトロールを実施【大分西部森林管理署と合同】

11月10日、九州林業土木協会大分支部主催（支部長：小倉建設(株) 代表取締役 永吉陽一）により、大分森林管理署管内で実行中の「鶴見嶽治山工事（中釣3溪）」の現場において、小倉建設(株)、清川産業(株)、九州緑化施設(株)、大政建設(株)、(株)梶原組、(株)山崎産業の各社及び大分森林管理署、大分西部森林管理署から関係職員の総勢24名が参加して実施されました。



現場担当者による説明の様子

はじめに、同支部事務局長（清川産業(株) 代表取締役 江藤龍治）から「日頃から安全管理及び対策は実施していますが、参加された皆さんの意見等を踏まえ更なる安全対策につなげていきたい」と挨拶がありました。

つづいて、両森林管理署を代表して猪島明久大分森林管理署長から「治山事業において重大災害が発生したことを踏まえ再発防止はもちろん、類似災害の未然防止に努めていただくようお願いします。また、本日の安全パトロールを契機として、更なる安全意識の向上につながることを期待します。」と挨拶があり、その後チェック項目に基づき安全パトロールを実施しました。



安全パトロールの様子

安全パトロール後の意見交換では、「作業者の目線の高さに安全看板を設置してはどうか」、「転落防止看板は増設した方がよい」、「救急車を要請する際、速やかに現在位置を伝えられるよう現場事務所等見やすい場所に緯度経度を表示してはどうか」、「通勤退勤時の安全運転について」など様々な意見が出され、労働災害の未然防止に取り組んでいくことを確認し有意義な安全パトロールとなりました。